

訓練の前提（村の地形特性と被害想定）

- 村の約70%～80%が山林であるとともに、村域を南北に流れる千早川等の4本の河川のため、東西方向の交通路は極めて限定される。
- 急峻な地形から、台風や集中豪雨による河川の氾濫、浸水、土砂災害等の被害が想定され、中山間部に位置する集落は道路が通行止めになる可能性がある。
- 本訓練では、土砂災害危険警報（当時は「土砂災害警戒情報」）が発表されている中で、南海トラフ地震（震度5強～6弱）が発生し、随所の土砂崩れで複数の孤立集落が生起した想定とした。



孤立集落状況把握・支援訓練の概要

- 実施日時:【訓練実施前WS】 令和7年9月25日(木)14:00～16:30
【孤立集落状況把握・支援訓練】令和7年11月9日(日)9:00～12:00
【訓練実施後WS】 令和7年11月9日(日)12:00～12:30

■主 催:千早赤阪村(内閣府の事業)、大阪府

■参加者数:約150名

■参加機関:地区住民、千早赤阪村消防団、大阪府警察、大阪南消防組合、
陸上自衛隊、千早赤阪村社会福祉協議会、村内ボランティア団体

■訓練項目

- ☐ 各地区の避難訓練(情報伝達～避難・避難誘導)
- ☐ 各種体験コーナー(避難所生活資材設置、救急法、救出資材操作、初期消火)
- ☐ 炊き出し訓練
- ☐ 大型ドローンによる物資輸送訓練

9月25日(木) 14:00～16:30 訓練実施前ワークショップ

▼訓練アドバイザーによる講義



▼地域調整会議（模擬）



・ 訓練実施地区の関係者（自主防災組織会長、避難行動要支援者本人、その支援にあたる民生委員・自治会の班組長等）が参加した。

・ 避難行動要支援者に関し高い識見を有する松川准教授（訓練アドバイザー）による、個別避難計画に係る講義を受けるとともにワークショップの全般で助言を受けた。

・ 2グループに分かれ、それぞれに自治防災課職員・福祉課職員・消防団員が加わって、個別避難計画作成のための地域調整会議（模擬）を実施した。

11月9日(日) 9:00～12:00 孤立集落状況把握・支援訓練

- 防災行政無線による一斉放送及び消防車を活用した巡回広報により、土砂崩れの発生を伝達した。
- 各集落の避難状況・被害情報を防災無線にて報告した。
- 避難行動要支援者の避難を車等で補助しながら、各集落から主会場に移動をした。
- ドローンによる物資輸送を実動検証した。

▼消防車による巡回広報



▼防災行政無線による避難状況報告



▼集会所に参集した避難者



▼ドローンによる物資輸送 ▼



▼炊き出し訓練



11月9日(日) 訓練実施後ワークショップ

- 訓練の振り返りをして、今後、それぞれが取り組みたいことを検討し共有した。
 - 要配慮者等の安否確認に関し、時間帯による家族の在・不在や住居の立地条件を十分に考慮した実効性ある体制を構築する必要があるという意見が挙がった。
- ある地区が、全世帯を対象とした「世帯別個別避難計画」の作成を決意した。

▼訓練アドバイザーによるコメント



▼振り返りのワーク

